

株式会社 電通国際情報サービス

日銀ネット利用金融機関向け次世代RTGS対応「流動性管理システム」

システムインテグレータ：

isiD

IT Solution Innovator

株式会社 電通国際情報サービス

http://www.isid.co.jp/

所在地：東京都港区港南 2-17-1

従業員数：2,201名（2008年3月末現在、連結）

業務内容：コンサルティングサービス、ソフトウェア・プロダクト販売/サポート、システム・インテグレーション・サービス、アウトソーシング・サービスほか

ソリューション：

流動性管理システム

使用したアドビ製品：

Adobe® Flex Builder

Adobe® LiveCycle™ Data Services

Adobe® Flash® Player



上：株式会社 電通国際情報サービス
金融ソリューション事業部

金融事業企画部長

飯田 哲夫 氏

下：株式会社 電通国際情報サービス
金融ソリューション事業部

開発3部長

五十嵐 欣次 氏

Adobe FlexとAdobe LiveCycle Data Servicesを活用したRIAで、リアルタイム性が要求される銀行間決済をレガシーマイグレーション

電通国際情報サービスは、日銀ネット（※1）が2001年にRTGS（※2）化されて以来、日銀ネットに対応した決済管理パッケージシステムの『流動性管理システム』を提供。流動性管理システムは、大手都銀、信託、マスタートラスト、証券会社、特殊金融機関等の計14金融機関に採用され、各金融機関での当預・国債・外為の決済管理において重要な役割を担っています。日銀ネット次世代RTGS（※3）運用開始にあわせて、クライアントサーバシステムで構築された流動性管理システムをRIAでレガシーマイグレーション。マイグレーションにあたってはAdobe FlexとAdobe LiveCycle Data Servicesを採用し、2008年10月、次世代RTGS第1期に対応した流動性管理システムV5をリリースしました。

会社概要

電通国際情報サービスは、顧客と直接取り引きする、業界では数少ないプライム・コントラクター企業として、これまで各業界のトップクラスの企業約1600社に高品質なITサービスを提供してきました。近年は、経営戦略立案、システム構築、マーケティング・ノウハウの統合を掲げて、金融、製造、流通・サービス業他、さまざまな分野の経営課題・業務課題を解決するシステムインテグレーターとして活躍しています。

直面した課題

2005年、日本銀行が日銀ネットの安全性と効率性の向上を狙った「次世代RTGS」構想を発表。それに対応するため、流動性管理システムも検討を開始しました。対応にあたっては、「次世代RTGS」の機能要件を実装することに加え、メンテナンス性向上のためにシステム・アーキテクチャーの刷新が検討されました。既存システムの機能を従来通り利用したいというユーザの意向もあり、既存システムの根幹を維持することにしました。そこで既存のクライアントサーバシステムのサーバ側の資産を活用するとともに、クライアントサイドはメンテナンス性と操作性を考慮し、ブラウザベースのRIA導入によるレガシーマイグレーションを行うことにしました。

導入の決め手

複数の製品を検討した結果、条件を満たせるRIAテクノロジーとして、Adobe Flexを選択しました。クライアントサーバシステムの操作性を継承するために、各種カスタムコンポーネントの作成が要件としてあげられましたが、Adobe Flexであればコンポー

流動性管理システム 決済データ管理 (当預系・一般口)

流動性管理システム 決済データ管理 (当預系・一般口)
オートフィルタ

ネットが豊富で自由度も高く、現行の機能を満たせると判断。また RIA を採用することで導入コストも小さくすることができ、さらにクライアントへのデプロイ負荷を減らし、運用負担を軽減できました。

データ配信の機能については、LiveCycle Data Services のメッセージング機能が採用されています。流動性管理システムは、リアルタイムに決済データをモニタリングできることが重要な機能となっており、大量の更新情報をリアルタイムに、正確に通知する必要があります。ブラウザベースのアプリケーションでありながら、こうしたプッシュ型の情報配信を実現する上で、Adobe LiveCycle Data Services は欠かすことのできないものでした。

加えて、決済システムという銀行の信用の根幹に関わるものであるため、採用技術の選定にあたっては、普及率・信頼性が重視されました。フロントエンドとなる Adobe Flash Player は市場で広く認知されており、RIA としての普及率・信頼感という点で一日の長があり、金融機関のユーザにも安心して受け入れられました。

導入効果と今後の展望

RIA という最新技術により、従来のクライアントサーバシステムを既存のコア・システムに手を加えることなく、レガシーマイグレーションすることができました。これにより流動性管理システムは機能強化と運用性の向上を両立した最新のシステムに生まれ変わりました。

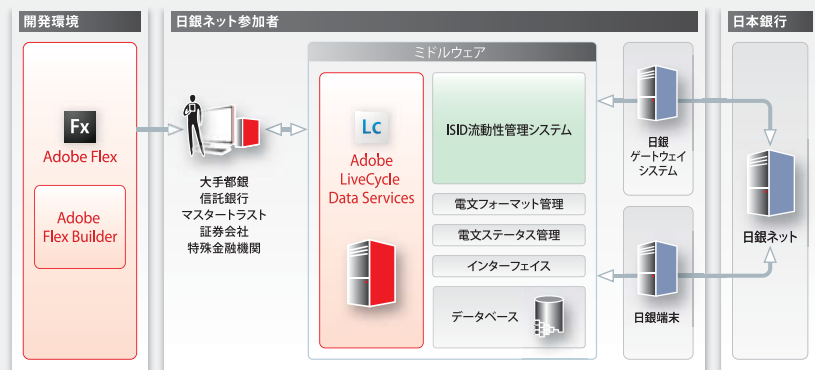
今後、ユーザへのヒアリングを通して、システムのより一層の機能拡張とユーザビリティ向上を図っていく予定です。

※1 日銀ネット：日本銀行・金融機関間の資金決済を、オンラインで処理するネットワークシステム。

※2 RTGS (Real Time Gross Settlement 即時グロス決済)：日銀が、金融機関からの振替指図を1件ずつ、リアルタイムに決済する方法。2001年より、連鎖的に決済不能を引き起こすシステムック・リスクを回避するため日銀ネットに導入。

※3 次世代 RTGS：決済システムの安全性・効率性向上のための日銀ネットのプロジェクト。外為円決済取引の完全 RTGS 化と流動性節約機能の導入(第1期)、大口内為取引の RTGS 化(第2期)を内容とする。第1期 RTGS は 2008年10月より稼働、第2期 RTGS は 2011年稼働予定。

システム構成



アドビシステムズ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー
www.adobe.com/jp

Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA
www.adobe.com

Adobe、Adobe ロゴ、Flash Player、Flex Builder、LiveCycle Data Services は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

© 2008 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.
ASJST809 4/09

